

『臨床力』を磨く実践医学雑誌

隔月刊誌 [ジェイメドムック] **jmedmook**

偶数月25日発行 B5判 約170頁

定価(本体3,500円+税) 送料実費

〔前金制年間(6冊)直送料金〕

(本体21,000円+税)

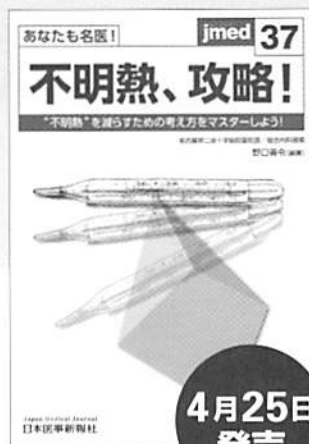
送料小社負担

第37号 あなたも名医! 不明熱、攻略

“不明熱”を減らすための考え方をマスターしよう

名古屋第二赤十字病院副院長/総合内科部長 野口善令 [編著]

「不明熱(発熱)」の攻略法を本書でマスターしよう! 診断に至る鑑別診断のプロセスを、症例提示しながら具体的に解説しているので、不明熱の「不明」の部分小さくするための手がかりを見つける思考トレーニングができます。この1冊でさらに臨床の幅をひとまわり広げてください!



204頁
ISBN 978-4-7849-6437-6

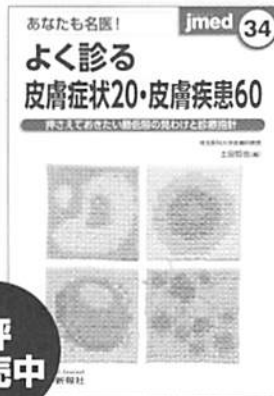
4月25日
発売

第34号 あなたも名医! よく診る皮膚症状20・皮膚疾患60

押さえておきたい最低限の見わけと診療指針

埼玉医科大学皮膚科教授 土田哲也 [編]

皮膚科以外の先生方のために、代表的な「皮膚症状20」と「皮膚疾患60」に分け、300点を超える鮮明な写真を収録。「見逃してはならない疾患」の皮膚写真も各項目で紹介しています。第3章では1疾患2頁で症例写真、肉眼診断のポイント(症状、分布)、病態、検査や、治療のポイント、処方例を配し、診療のエッセンスをよりわかりやすく解説。診察室に欠かせない1冊!



好評
発売中

224頁 ISBN 978-4-7849-6434-5

発行予定

※下記のテーマは予告なく変更する場合がありますのでご了承ください

2015年
6月

第38号

あなたも名医! どう診る? 診療所で出会う救急患者

八戸市立市民病院救命救急センター長 今 明秀 [編]

2015年
8月

第39号

あなたも名医! 在宅・看取りノート

鈴木内科医院副院長 鈴木 央 [編]

バックナンバーも好評発売中

jmedmookバックナンバーはこちら→

日本医事新報社

〒101-8718 東京都千代田区神田駿河台2-9

ご注文は

TEL: 03-3292-1555

FAX: 03-3292-1560

URL: <http://www.jmedj.co.jp/>

書籍の詳細情報は
小社ホームページをご覧ください。

医事新報 検索



連載 [ネグレクトが疑われる事例の考察で臨床力をみがく]

全6回

気になる親子関係をみるコツ⑤

被虐待体験を持ちつつも実母を理想化する母親

小林隆児 (児童精神科医/西南学院大学人間科学部社会福祉学科教授)

1. 2歳9カ月の男児とその母親にみられる母子関係の特徴

最初に提示した1歳3カ月の事例 (No.4743, p41 参照) と前回提示した2歳9カ月の事例 (No.4746, p39 参照) の全体を通してみたとき、最も印象的なことの1つは、母親に対して「甘えたくても甘えられない」ゆえに起こる子どもの心細い気持ちが表情や動きに明瞭に表出されていないことである。表情だけを見ていると不安が読み取りがたくなっているのだ。

「甘え」が受け止められるか否かは相手次第であることを考えると、母親に怒りをぶつけることは困難で、極力何事もないかのように装おうとするのは自然な成り行きである。子どもたちの多くは、自分が何か悪いことをしたのではないかと自責感を強め、とにかく気に入られるように、嫌われないように心がけるものだからである。

2歳9カ月の事例では母親の前で過度に萎縮し、自発的・能動的行動ではなく、母親に言われるがままに振る舞っている。今のこの子にとっては、それが生きていく上で必要なことだからである。母親の前で萎縮しつつも、ストレンジャー (ST) と2人になると途端に声が出なくなったところを見ると、母親と一緒にいるほうが多少不安は軽減されているのであろう。子どもの母親に向ける感情がいかに複雑で繊細なものかを推測することができる。

母親の生い立ちからもうかがわれるように、母親は自分の期待するほうへと子どもを遊びに誘っているが、子どもはそれに対してまったく抗うことはなく、母親の指示に従っている。母親をこのような働きかけへと突き動かしているのは、他人様にどのように見られ、評価されるかという心配とともに、こうあるべきだという強い思いである。そこには子どもが何をしたいのか、何を欲しているのか、ということに思いを寄せるゆとりなどない。

誰しも母親の無理解を非難したくなるであろうが、ぜひとも考えてほしいのは、母親が、自分の生い立ちが子どもにどう影響しているのかを気にしていて、どうしてよいかわからないという強い困惑を抱いている、ということである。

2. 母親の子ども時代の被虐待体験

では、母親の生い立ちはどのようなものだったのか。連載第3回 (No.4745, p40 参照) で取

り上げたアダルト・アタッチメント・インタビュー (adult attachment interview: AAI) の手法で語られた母親の幼少期の体験想起から考えてみよう。以下に重要箇所のみ取り上げる。

筆者: 「できるだけ小さい頃から思い起こして、お母さんとの関係を表すような形容詞やことばなどを5つ挙げて下さい」

母親: 「(すぐに)『こわい』、『厳しい』、『恐ろしい』(の3つを挙げ、しばらくしてから)『熱心』、『互いに一所懸命』(と答えた)」

筆者: 「それぞれのことばについて具体的に思い出すことがあったら話して下さい」

母親: 「(前者の3つについては)いくつもあるんですけど、小学2年のとき、(私は)問題児だったんです。だから(自分の)母親は家庭訪問の際に担任に、『優等生の○○君の隣に(娘を)座らせて下さい』と希望を言ったんです。そうしたら、その通りになったんです。授業参観のときは、母親の視線を常に感じて、先生の質問に自分はわからないのに仕方なく手を挙げていました。授業が終わって、無造作に学習道具をランドセルに詰め込んだら、母親がものすごく怒って、ランドセルを背負っていた自分を蹴っ飛ばしたんです。そのため自分は数メートル吹っ飛んだんです。痛くもなともなかったんですけどね」

「ピアノが弾けないと言うと、指をかまれたこともあったんです」

「水泳のとき『他人にできることができないのか!』と言われて、後ろから突き落とされて、無理矢理泳がされたんです。実は(自分の)母親は身体が悪くて泳げないくせに」

「でもそのおかげで、水泳もピアノも学年で1, 2番になりました。スパルタ教育のおかげですけど」

「(母親の)お手伝いを随分としました。自立させるためというか、しっかりさせたいというふうに思っていたみたいですけど」

「頭をかち割ってやると言わんばかりに、よく私の頭をパンと叩いていました」

「(後者の2つ『熱心』と『互いに一所懸命』については)とにかく教育熱心だったので、私は図書館の本をすべてというくらい読んだと思います」

「私はやりたくないんだけど、水泳もピアノも母親の期待に応えなければいけないから、一所懸命やっていた。一所懸命課題をこなすという感じだったと思います」

筆者: 「気持ちが動揺したときはどうしましたか」

母親: 「小さいときに動揺したという記憶がないんです。動揺したといたら、掃除をさぼって、先生がそのことをお母さんに言おうとしたときですね」

筆者: 「そのときはどうしましたか」

母親: 「先生が母親に言ったらとんでもないことになるから、『自分で言います』と先生に言いました。母親に怒られるかもしれない、と動揺することが多かったですね。」

だからそういうときは妹と一致団結してごまかしたりしていました」

筆者:「小さい頃に気が動転したときはどうしましたか」

母親:「たぶん、わめいてヒステリーを起こしたんでしょうね。でも、あまり記憶にないんです。よく甲高い声で、どうのこうのと母親に言われていたような気がします」

筆者:「怪我をしたとき、感情的に辛いときなどに、お父さんやお母さんが寄り添ってくれたり、なだめてくれたり、抱っこしてくれたりしたことはありますか」

母親:「ないですね。私は叱られてばかりなので、両方の祖母が、私の母は厳しすぎるとしょっちゅう言っていました」

筆者:「今までお話しして下さったいろいろな経験のほかに、強くショックを受けたとか、すごく恐怖を感じた体験はありますか」

母親:「ええ、ショックを受けたのは、母親に『親不孝だ』と言われたことでした。私にとって一番辛いのは母親から『親不孝だ』と言われることでしたから。それも何度も何度も言われました。私はこんなに頑張っているのに。すごく悲しかった。結婚してからもしばらく言われ続けました。今はわりと聞き直っているのですが、そんなに動揺することはないですね」

筆者:「20年後のあなたのお子さんに対して、3つ望みを挙げるとしたら、何を希望しますか」

母親:「(間髪いれず)まず、自立」(確信的に答えた)

「あとは、大志とまではいかないまでも、今後自分が何をやりたいとか、目的を持ってほしい」

筆者:「ご自身が子どもだった頃の経験から、とりわけ学んだと思うことはありますか。子ども時代に、あなたが経験したことから学んだと感じることをお聞きしたいのです」

母親:「それはやっぱり自立というか、自分で生きていく生存能力ですね。だから子どもに対しても生存能力の高い子になってほしい。どういう環境でも生きていける子になってほしいと思っています」

筆者:「あなたに育てられることによって何を学んでほしいと思いますか」

母親:「考えたことはないですけど、私(母親)は君(子ども)のことを思っているんだよ、ということですかね。わかっていると思うんですけどね」

3. AAIの語りからみえてくるもの

AAIで語られている内容は聞くだけでも凄まじいものがある。自ら母親との関係を『こわい』、『厳しい』、『恐ろしい』と表現しているように、明らかに虐待とみなされるような体験である。それにもかかわらず彼女は淡々と語り、深刻さはまったくと言っていいほど感じさせない。さらには、その後しばし考えて、母親との関係を『熱心』、『互いに一所懸命』と肯定的に評価している。

ここで注目したいのは、母親への否定的な評価に関するエピソードが具体性を帯びているのに比して、肯定的な評価のエピソードは具体性に乏しいことである。つまり、否定的な経験は少なくとも実感を伴っているのに比して、肯定的な経験は実感に乏しく、彼女自身がそのように思い込んでいる(思い込まされている)節があるということである。いまだ、実母は理想化された存在として彼女のところに生き続けているのではないか。幼少期に植え付けられた価値観に今も強く拘束されているということである。

さらに注目したいのは、彼女がめずらしく自分の母親に対して「水泳のとき……後ろから突き落とされて、無理矢理泳がされたんです。実は(自分の)母親は身体が悪くて泳げないくせに」と、怒りに近い感情を表現しているにもかかわらず、その後すぐに「でもそのおかげで、水泳もピアノも学年で1, 2番になりました。スパルタ教育のおかげですけど」と、否定的感情を引っ込めて肯定的表現をしていることである。

ここに自分の母親に向ける否定的感情と肯定的感情が併存している彼女の心理状態を読み取ることができる。このような心理は第2回(No.4743, p41参照)で解説した「アンビヴァレンス」である。つまり、この事例では、子どもが母親に「甘えたくても甘えられない」というアンビヴァレンスの心理を抱いているが、それと同時に母親自身も自分の母親に対して強いアンビヴァレンスを抱いているということがわかる。

この母親自身のアンビヴァレンスの心理が、子どもに関わる際に、幾多の矛盾した態度を生んでいるということを思い出してほしい。たとえば、子どもに唐突に指示して何かをさせながらも、すぐに駄目を出す母親の関わりである。母子双方にみられるアンビヴァレンスは、両者の関係を複雑なものにし、子どものアンビヴァレンスはよりいっそう強まっていくことが危惧されるのである。

4. 母子支援をいかに考えるか

これまでに母子2組の事例を取り上げた。そこで筆者が読者に伝えたかったことは、子どもだけを見て発達障碍だ、母親だけを見て虐待だ、などと短絡的に結論を下してはならないということである。母子の間に生じている複雑な関係模様に関心を持ってもらいたかったのである。この後、発達障碍へと発展するか、虐待が起こるか、どちらにしてもそれは「関係」の中で生起するものである。よって、そのようなリスクが現実化する前の萌芽段階で関係の問題を読み取ることが今後の臨床家には求められていると思われる。

次回(最終回)は、これまで解説してきた乳幼児期の母子関係の問題が成長過程でどのような問題となって顕在化するかを考えてみたい。

日本医事新報社の小児科の本

小児の病歴聴取、身体所見の鉄板マニュアル！

HAPPY! こどものみかた



編著 長野県立こども病院 小児集中治療科 副部長 笠井正志
医療法人明雅会 こたま小児科 理事 児玉和彦

小児の病歴聴取と身体所見を初めて学ぶ人、一から学び直したい人のための鉄板マニュアル！ いろいろと制約のある「夜間」の章と、検査等もしやすい「日中」の章に分けて解説しています。

好評
発売中

History taking
And Physical examination
in Pediatrics for Young physicians

● A5判 ● 328頁 ● 定価(本体 4,200円 + 税)
● ISBN : 978-4-7849-4388-3

目次

- I 総論
- II 夜にどうする
- III 昼の症候学
- IV 臓器別アプローチ
- V こどもとその周辺

熱い心で執筆された稀有な書籍です

筋金入りの若手・中堅臨床医によって現場からの視点が買われている。本書は類書がないだけでなく、信頼のおける臨床医によって、共有された vision & mission と、こどもへの愛情のもと、熱い心で執筆された稀有な書籍です。当院小児科でも小児科臨床研修のスタディーガイド(テキストブックとしてではなく)として本書を採用し、若手医師教育に大いに役立てたいと考えているところです。(読者の声より)

Primary
care
note

こどもの病気 [第2版]

東京通信病院小児科部長 小野正恵 [著]

A5判・272頁・口絵カラー 定価(本体 4,000円 + 税)
ISBN978-4-7849-4259-6

こどもを診るのはこわくない！
小児科診療の実践・コツが学べます

①症状別一対応を急ぐとき、②小児診療の基礎知識、③年齢層別一疾患の特徴と診療上の注意点、④日頃の悩み、⑤遺伝・遺伝子・染色体の5章にわけて記述。

小児医療の中で重要な考え方のようなものを伝える名著

小児科の解説書や教科書的な書物は多数ありますが、それとは違い、豊富な経験をお持ちの先生が、ご自身の気持ちと言いますか…小児医療の中で重要な考え方のようなものを伝える名著なのだと思います。今後、より良い小児科医を育てていく上でも、最も重視すべき点だと思っていますので、教育の場面でも参考にさせていただきます。

(レビューより)

日本医事新報社

〒101-8718 東京都千代田区神田駿河台2-9

注文は

TEL : 03-3292-1555

FAX : 03-3292-1560

URL : <http://www.jmedj.co.jp/>

書籍の詳細情報は
小社ホームページをご覧ください。

医事新報 検索

